

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

当院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	肝門部領域胆管癌に対する inside plastic stent 留置における内視鏡的乳頭括約筋切開術が及ぼす影響
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
試料・情報の提供を行う研究機関の研究責任者(個人情報管理者)	消化器・内分泌・代謝内科学 院生医員 實藤洋伸
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027年3月31日
対象となる方	2017年1月から2026年3月に当院を受診された方のうち肝門部領域胆管癌と診断された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等
研究の概要(目的・方法)	当院で肝門部領域胆道癌に対し検査・治療を受けた患者さんの診療録(カルテ)の情報を収集し、ステントの開存期間に乳頭切開術が影響を及ぼすか評価するために研究を行うことといたしました。今回の研究は、胆道癌患者さんにより効果的で安全性の高い治療を提供できることを目標にしており、皆様の今後の診療にも役立つことができると考えています。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。提供先が外国の研究機関や外国の企業の

	場合には、その国での個人情報の保護規定が定められていることを確認した上で、個人を特定できる情報を含まない形で提供します。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院 消化器・内分泌・代謝内科 實藤洋伸 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5308

【共同研究について】

この研究は、以下に記載の他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんの試料・情報等は、氏名や住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を除いた上で、記録媒体を主管機関である愛媛大学医学部附属病院に提供します。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【研究組織】

研究責任者	愛媛大学医学部附属病院 消化器・内分泌・代謝内科学 院生医員 實藤 洋伸
既存試料・情報の提供のみを行う機関	(研究機関名) 愛媛県立中央病院 消化器内科 消化器内科部長 黒田 太良 四国がんセンター 消化器内科 医師 奥嶋 優介